



だより

No. 270
議会広報委員会

政務 調査報告

空知町村議会議長会（会長・駒谷長沼町議会議長）主催による道外行財政制度政務調査報告

十一月一〇日から十二日において新潟県三条市と長岡市を視察しました。三条市では「スマートウェルネス三条」事業を視察しました。空き店舗対策と移動市場の出店・デマンド交通による住民の足確保対策・健康づくり施策と市民によるボランティアを関連させた施策の展開がされており、北竜が今、求められている事業にも活かせる施策も多くありました。特に健康マイレージという事業はボランティア事業や市のイベントや生涯学習に参加するとポイントや生涯学習に還元できるという独自の施策も興味深いものでした。



長岡市では「防災体制強化の取り組み」についての視察でした。中越大地震の経験を活かした防災体制の強化をはかっているものです。日本一災害に強い都市を目指してと市民一丸となって取り組んでいるとのこと。長岡市防災体制検討委員会（専門家8名により構成）の提言から指針をまとめ被災地の経験を最大限に活かし、市民力を柱としたまちづくりを進めています。地域の防災リーダー「市民防災士」の育成、町内会や市民自らの手作り避難計画、

それらに活用する「防災モデル事業育成支援補助金」の創設など防災施策の充実された長岡市でありました。

全国 大会報告

第五七回町村議会議長会
全国大会報告

十一月十三日・東京
NHKホールにおいて
開催されました。

全国九三〇町村議会議長が参加し全国各地の要望事項をまとめ決議して翌日から国会議員・各官庁に対して要請するものです。

大会は特別決議として、
一、東日本大震災からの復興と大規模災害対策の確立
一、真の分権社会の実現
一、町村税財源の充実強化
一、道州制に断固反対
の5件を満場一致で決議しました。



出席来賓

安倍内閣総理大臣

伊吹衆議院議長

山崎参議院議長

関口総務副大臣

石破自民党幹事長

藤原全国町村会長であります。

大会終了後は特別講演として群馬大学教授であり、広域首都圏防災研究センター長の片田敏孝氏を迎え「想定を超える災害にどう備えるか」と題して講演が行われました。講演内容は、想定を超える津波におびえないで正しく理解して対応する必要性を話されており、必要なのは転換を求め、「必要なのは姿勢の防災、

危険を察知して自分の取るべき行動がわかる子供を育てなければいけない。大人の行動が子どもの行動規範になる。想定に右往左往するだらしない姿ではなく、しっかりとした背中を見せることである」と指南を受けた講演でありました。

定例会・子ども議会を傍聴しませんか？

■平成25年第4回定例会

12月12日(木)午前10時開会

■子ども議会を開催します。

真竜小学校6年生12名

12月12日(木)午前8時50分～

議員コラム

日本の現実、地方にはお金がない、少子高齢化が進む、若者の人口減少が止まらない。人が減って行くと学校の統廃合、商店街の衰退、農業の担い手の変化が問題となり、今まで築いてきた地域社会が維持できなくなっていく、これが日本の現実です。行政の力だけでは足りなくなってくる。そこにボランティアとは違うNPOや町内会活動という新たな「公」が必然的に出てきて地域の問題解決をいつある。ゆえに全国的に言われている、「議員って本当に必要なの？」ということにつながっているのだろうと思う

います。いつの時代も地域社会には課題や問題があり、厳しい現実から逃げることなく、新たな価値を見つけ立ち向かう勇気を持った人は魅力ある人です。そんな魅力ある人は議員になるべきです。

来年の今頃を案じています。出でよ！

まちづくりの担い手たち。

昼間忙しいなら夜に議会を開催したらいい、田植えや稲刈り時期が・・・というならいつでも議会が開催出来る通年議会に変えていけばいい。そんな地域に応じた議会運営をしていけばいいのです。

(佐々木)